

平成29年 第3回香取市総合計画審議会 会議概要

開催日時： 平成29年8月24日（木） 午前10時00分から11時30分

開催場所： 香取市役所7階 全員協議会室

出席者： <委員>

石井良典委員、 高岡正人委員、 大川裕志委員、 金親孝夫委員、
菅谷長藏委員、 平山茂治委員、 伊藤寛委員、 堂下浩委員、
関謙次郎委員、 實川美香委員、 鈴木恵子委員、 中村伸也委員、
栗田智委員、 鵜崎昭一委員、 奈良律子委員、 香取浩委員

<事務局>

総務企画部企画政策課

有限責任監査法人トーマツ

欠席者： 武田好久委員、 浅野文男委員、 圓藤弘典委員、 椎名宥心委員

議題：

- (1) 第2次総合計画将来都市像フレーズについて（報告）
- (2) 第2回かたりの未来まちづくりワークショップ実施結果について
- (3) 第2次香取市総合計画・基本構想案について
- (4) 第2次香取市総合計画・基本計画骨子（施策体系含む）案について

配付資料： 会議次第

資料1：第2回市民まちづくりワークショップ報告書

資料2：基本構想案

資料3：基本計画骨子案

参考資料：将来都市像フレーズ決定までの経緯

参考資料1：成果指標一覧表

参考資料2：高校生アンケート地域ごとの回答結果（割合）

参考資料3：施策新旧対照表

議事内容：

1 開会

2 会長挨拶

第3回香取市総合計画審議会を開催いたします。

私は一昨年前、「香取市まち・ひと・しごと創生推進会議」の議長を務めさせて頂いてから、香取市出身の学生から香取市について色々な話を聞いてきました。

その時点で、彼らの多くは大学の周辺に下宿する香取市出身者の千葉市民です。

そして、彼らは異口同音に「生まれ育った香取市は良いまちである。出来れば香取市に戻って生活をしたい」と言います。しかしながら、就職活動という現実と直面すると、彼らの大半は、残念ながら首都圏に就職していきます。

今回、「まちのあるべき姿」を表す、大変含蓄のあるフレーズが決まり、今後はこの将来都市像に基づき、「市民ワークショップ」や「アンケート調査」の結果を盛り込みながら総合計画が策定されていきます。

計画の策定の際には、香取市で生まれ育ち、香取市の良い面を理解しているが今は香取市の外で暮らしている、いずれは香取市に戻りたいと思っている人達、こういう人たちを含んだ香取市民の意見がいかに基本計画に盛り込まれていくかがカギになると考えております。

また、香取市の若い人の意見をいかに汲み取っていけるかが基本計画の策定にとって重要であると考えております。

本日の審議会におきましては、市民の思いをいかに基本計画へ盛り込んでいくのか、各委員の皆様からアイデアを頂戴できればと考えております。

何卒よろしく申し上げます。

3 議事

議題（1）第2次総合計画将来都市像フレーズについて（報告）

参考資料1に基づき、将来都市像フレーズの決定とその経緯について、事務局から説明。

フレーズ策定には、これまで市民、審議会、行政と多くの検討体での議論を重ねてきた。前回の審議会において、提示した3案から、審議会委員からの意見等により追加、修正した5案を最終案とした。

最終5案に対し、審議会委員並びに市職員アンケートを実施した結果、いずれのアンケートにおいても投票数を得たのが③であり、次いで①という結果であった。

これらの結果を踏まえ、8月17日に開催された経営戦略会議に諮ったところ、市民ワークショップ等での意見がよく反映されており、かつ審議会委員、市職員アンケートにおいて最も支持された、『豊かな暮らしを育む歴史文化・自然の郷 香取 ～人が輝き 人が集うまち～』に決定した。

議題（2）第2回かどりの未来まちづくりワークショップ実施結果について

資料1「第2回市民まちづくりワークショップ報告書」について、市民まちづくりワークショップの位置づけと計画策定における役割、第2回まちづくりワークショップ検討結果を事務局から説明。

全4回のワークショップのうち、第2回と第3回では、香取市が抱える課題の発見と解決がテーマとなっている。第2回では、市の課題を掘り下げ、第3回のワークショップでは、その課題解決に向けた取り組みを中心に検討を行う。検討いただいた内容は、総合計画の中で取り上げる施策や、事業の方向性、協働のかたちの検討の際の、意見として計画策定に活用とする。

第2回まちづくりワークショップには、28名が参加し、年代別に6班（A～F班）に分かれて課題に取り組んだ。第1ラウンドでは、現行の後期基本計画の施策体系の6分野の中から参加者が検討したい分野を3つ選択し、分野ごとの課題を思いつく限り、自由に挙げていった。続く第2ラウンドでは、第1ラウンドで選んだ分野ごとに検討した課題を整理し、課題に対する解決策として何をするか取組や対策方法検討した。

【堂下委員】

市民まちづくりワークショップは、残り第3回、第4回とある。第3回の実施ではどのような内容に注力して議論するのか。また、第3回ワークショップの内容は、第2回ワークショップで取り組みきれなかった部分について議論することになると思われるが、第2回ワークショップと第3回ワークショップの接続を第3回からの初参加者に伝える方法について説明してほしい。

【事務局（トーマツ）】

第2回ワークショップでは、香取市の施策の取組分野における課題とその大まかな解決方法の頭出しを行った。第3回ワークショップでは、第2回ワークショップで出された課題や解決方法を基にしながら発展的な内容を議論する。

第2回ワークショップは議論不足であった。また、第2回参加者と第3回からの初参加者との間に情報の差が生じる。この差を埋めるために、第3回ワークショップ冒頭に第2回ワークショップの内容と結果を共有してから議論に進む。第3回ワークショップの検討内容としては、課題の解決に向けた取り組みを中心に検討する。

【中村委員】

第1回ワークショップ時はグループ分けがわかりにくかったが、第2回の実施では参加者のグループを属性ごとに分けたのは良かった。しかし、30代、50代の参加者がいないのは問題であると思うので、ワークショップには全ての年代が参加するようにしてほしい。

第2回の検討内容を見ると、分野の選択で偏りが生じているように感じる。選択したグループが少ない分野では、選択したグループの属性が考える課題しか出てこない。次回は、偏った課題の抽出になることを避けるために、グループの分野選択をまんべんなく調整してほしい。

また、若い人たちの意見はどのように計画の策定に採用していくのか。ワークショップで出た課題の中から、全体で共通している課題のみを抽出すると属性ごとの意見が埋もれてしまうのではないか。第2回の意見の中では、高校生のグループであるC班、D班から出てきた意見は重視したほうが良いと考える。

【事務局（トーマツ）】

第3回ワークショップでは、冒頭で第2回ワークショップの結果を参加者に共有し、情報を補足するラウンドを設けることを考えている。情報の共有では、全体の共通意見のみを提示するだけでなく、班ごとに出された意見を提示し、参加者が第2回ワークショップの結果、課題を把握してから第3回のワークを始めることを考えている。また、ワーク中に全体で検討分野を共有し、調整することで検討する分野、課題の網羅性を担保できる

と考えている。

課題の抽出は、ワークショップだけではなく市民アンケート等、様々な対象に向けたアンケートでも実施する予定となっており、幅広い視点から課題を抽出する。繰り返しになるが、報告書の12ページで示しているまとめは委員に見て頂くためにまとめたものである。第3回のワークショップでは、第2回ワークショップで出された詳細な課題を参加者に提示する。

【奈良委員】

ワークショップ参加者の募集方法を教えてほしい。また、当日会場いきなり来ても参加できるのか。

【事務局（企画政策課）】

ワークショップ参加者の募集方法については、広報・ホームページ等で随時声をかけているが、なかなか参加者が集まらないというのが現状である。また、ワークショップへの参加は、事前登録制となっており、一度事務局を通して頂きたい。もちろん、途中の回からの参加も可能である。

議題（3）第2次香取市総合計画・基本構想案について

資料2「基本構想案」について事務局から説明。

基本構想は、5章からなる第1編「はじめに」と1章からなる第2編の「基本構想」の2編構成となっている。

序論となる「はじめに」では、「計画の概要」から始まり、「市の概況」を説明、市を取り巻く「社会的潮流の動向」についての説明、「市民の声」、「後期基本計画の検証」と続き、現状の把握と今後取り組むべき課題の頭出しを行っている。

「計画の概要」では、計画策定の趣旨、役割、構成と期間について記していく。「市の概況」では、市の沿革や市民憲章等について説明し、まちづくりの基礎となる人口と財政の視点から市のこれまでの経緯を記していく。

「社会的潮流の動向」では、市の今後の取り組みに関連のある、社会の動向について記していく。

「市民の声」は、9月に実施する市民意識調査の結果の一部を掲載する予定である。

「後期基本計画の検証」では、現行計画の達成状況等を把握し、施策の取り組み内容やその進捗状況、社会環境及び市民ニーズの変化などを踏まえた検証を行っていく。検証結果は、今後取り組むべき課題とその解決に向けた方向性を明らかにし、基本計画での取組内容の検討に活用していく。

基本構想では、市が目指す「将来都市像」、その実現のための「施策の大綱」、そして取り組みの行動指針である「まちづくりの基本姿勢」について紹介し、市が今後目指すべき方向性について提示していく。

施策の大綱については、将来都市像を実現するための取り組みの分野を示したものであり、基本計画で掲載する施策体系と整合性を図り、市民の意見を汲み上げたものを策定していく。

まちづくりの基本姿勢については、「人とのつながり」「香取らしさ」「計画的で効率的な計画推進」の3つの考えを柱に基本姿勢を記していく。

【中村委員】

資料2の表紙には「第2次香取市総合計画基本構想案」とあるが、「香取市総合計画（案）」ではないか。また、資料2の「はじめに」は総合計画の中では、どの部分に位置づけられるのか。

【事務局（トーマツ）】

資料2表紙のタイトルを基本構想（案）にしたのは、今回の議論で委員の皆様方に基本構想の第2編・基本構想部分を議論して頂くことになっていたことから、便宜的にタイトルを基本構想（案）とした。「はじめに」は、総合計画の前段の説明部分に位置づけられる。

【鵜崎委員】

（基本構想本文中に）「地域の個性や資源を生かしながら」とあるが、「地域の強みをよく理解した上で」などの言葉を入れてみてはどうか。

6ページの年齢階層別人口の表では、平成17からH27までの10年の推移で説明されているが、人口動態について説明する文章中では、H29までの12年間について記述してもよいのではないかと。

9ページの「社会的潮流の動向」の少子高齢化と人口減少の項の最後の行にある「本市の」という言葉はいらぬのではないかと。

文章中で「国」と「政府」という言葉が使われているが、使い分けはしているのか。国を指した表現として使用しているのならば「政府」を使用したほうがよいのではないかと。

【事務局（トーマツ）】

人口動態の表にある数値は国勢調査の数値を基にしている。国勢調査は、5年ごとの調査実施となっているため、H29の数値を使用する場合は、住民基本台帳での人口を使用することとなる。その場合、冊子全体での調整が必要となるため、どのように対応するかは検討する。

国と政府の言葉の使い分けについては、国家全体や国全体について指す時は「国」を使用し、政府が主導的に政策を実施しているような時は「政府」を使用しているが、再度見直しを図り、分かりやすい表現に努めていきたい。

【堂下委員】

まちづくりの基本姿勢が3つ書かれているが、今後のワークショップやアンケートの結果を踏まえ、基本姿勢が変わっていくのか。

【事務局（企画政策課）】

ワークショップやアンケートの結果を踏まえ変わっていくことを想定している。資料で示しているものは現段階のものであり、記載内容のイメージを共有するために記載している。

【中村委員】

後期基本計画だけを検証するのではなく、現行の総合計画自体は検証しないのか。
香取市総合計画・後期基本計画と記載されており、総合計画と後期基本計画が並列の関係にあるように感じる。総合計画と前期基本計画と後期基本計画の違い、そして計画間の整合性はどうなっているのか。

【事務局（トーマツ）】

総合計画は基本構想10年となっており、基本計画は前期が5年、後期が5年の計画である。

分野別の方向性、それぞれの施策の目標値など具体的に目標設定しているのが基本計画である。今回策定する

総合計画では、平成30年から10年間の基本構想と5年間の前期基本計画を策定する。

計画の検証に関して、前期基本計画（平成20年度～24年度）の検証は後期基本計画の中で行っており、今回策定する総合計画の中では、現行の後期基本計画を中心に検証していくことを想定している。

議題（4）第2次香取市総合計画・基本計画骨子（施策体系含む）案について

資料3：「基本計画骨子案」について事務局から説明。

基本計画は、1編4章の構成となっており、第1章「計画概要」では、総合計画の中での基本計画の位置づけ、計画期間や策定のポイントについて説明。

第2章「香取市の将来のすがた」で人口、財政、地域整備の「ヒト・モノ・カネ」の施策実行のための制約条件の視点を踏まえ、将来の香取市の推計と今後とるべき方向性の示唆を行う。

基本構想では、過去から現時点までの把握を行い、基本計画の将来の姿では、現時点から将来の予測を行う。

第3章「重点プロジェクト」では、組織横断的に取り組んでいく項目についての背景、課題、取り組みの方向性を記載する。

第4章の「施策内容」では、将来都市像実現のための施策の一覧である施策体系を提示し、各分野の施策について記載する。

施策体系については、現行計画で34施策となっているが、次期計画では、検討途中ではあるが40施策での調整を進めている。施策の内容については、計画を見る人にとって内容を理解しやすいように工夫していく。

【鵜崎委員】

総合計画と総合戦略との兼ね合いはどうなっているのか。

【事務局（トーマツ）】

総合戦略は分野別計画の1つ、人口減少にどう対応していくのかについての総括的な計画となっている。位置づけとしては、総合計画の下位のものになるが、網羅的であることを勘案すると総合計画との関連性が深い計画である。総合戦略の中で立てている目標や取り組みの方針は、総合計画に反映していくことを検討している。

【鵜崎委員】

40の施策について、「農業」は、現行の「農林畜産業」から名称が変わっているが、香取市は自伐型林業が盛んであることから、林業を入れてみてはどうか。「自然環境」は「自然景観」についての内容を入れても良い。「防災」は「地域防災」とも捉えられる。「子育て」については、「子育て環境の整備向上」にすると良いのではないかと。総合戦略において、「移住定住」について触れているので、施策として入れても良いのではないかと。

また、社会における女性の活躍は目を見張るものがある。施策として「女性活躍」を入れてみてはどうか。「人づくり」、「地域づくり」を施策に入れてみては良いと思う。

【事務局（トーマツ）】

ご指摘いただいた施策に対するご意見については、今後庁内で検討し、次回の審議会で報告したい。

【中村委員】

第2次総合計画の基本計画では施策総数が40施策になっており、現行の基本計画の施策総数から増加して

いるが、現行計画との整合性は取れているのか。

【事務局（トーマツ）】

第2次総合計画の基本計画の施策は、現行計画の内容を踏襲して施策を作成している。次回の審議会時に新しい施策の位置づけについての説明をする予定である。

議題（5）その他

【奈良委員】

第3回の市民ワークショップはいつどこで行われるのか。

【事務局（企画政策課）】

8月26日の土曜日に香取市役所5階大会議室を会場に午後1時から午後5時終了予定で、実施する。

【事務局（トーマツ）】

第2回総合計画審議会時に提案のあった、『高校生アンケートの地域別回答』の件について、参考資料2「高校生アンケート地域ごとの回答結果（割合）」に基づき、事務局から説明。

4 閉会

事務局の司会進行により、閉会。

以上